

実践⑦ 徳之島町立図書館

1 はじめに

徳之島町立図書館は、平成16年に徳之島町の市街地亀津の中心地に新築された複合施設の生涯学習センター1階にある。

館内は幼児でも手の届きやすい高さの低書架を用い、季節ごとの展示や月ごとの展示の工夫など、「入りやすい・利用しやすい・過ごしやすい」をモットーに利用者目線でのサービスや情報発信を行っている。

また、1か月ごとに北から南まで約45キロの縦に長い町内の11小中学校や幼稚園・保育園（所）・施設・集落など、合計26か所のステーションを移動図書館「ハイビスカス号」が巡回し、楽しみに待っている子どもたちや集落の皆さんに本を届けるために巡回貸し出しを行っている。

2 子どもの読書活動を推進する取組

(1) 主に幼児・児童・親子対象の行事

○ 館内及び館外おはなし会の開催

- ・ 毎月第1日曜日は0歳児から2歳児と保護者を対象に、第2・4（土曜日）は3歳児以上を対象にボランティアと職員で手遊びやわらべ歌、絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。
- ・ 春や秋の読書週間には「おはなし会スペシャル」として、読み聞かせやワークショップを行っており、参加者から好評である。
- ・ 読書週間の時期には、学校への出前おはなし会を開催している。

○ 家庭学級での親子読書会を開催

- ・ 保護者や児童生徒を対象に出前おはなし会を開催している。

○ 夏休みに緑陰読書を開催



読書週間おはなし会

(2) 時季に応じた行事

・ クリスマスフェスタ

小中学生ボランティア(TTクラブ)や親子読書会、吹奏楽団などの団体へ出演協力を依頼し開催している。毎年約200名の親子連れが参加する当館最大のイベントである。



クリスマスフェスタ

(3) 地域との連携による行事

子どもの読書週間行事として、おはなし会やワークショップ「親子で工作・昔のおもちゃを作って遊ぼう」を開催。地域の高齢者の皆さんを講師に迎え、自然にある素材を使ったおもちゃ作りとその遊び方を一緒に体験する。



子どもの読書週間行事

(4) 郷土学習の一環としての行事

ア 月遅れ七夕まつり（1か月遅れの日曜日に開催）

郷土学習の一環として、昔の七夕や民話に触れ、子どもや高齢者、親子連れなどの世代間交流の場となっている。

イ 新春「徳之島島口ことわざかるた」大会

1月に、徳之島島口ことわざかるたを用いて開催。一般、幼児から小学生、高齢者まで参加があり、島口（方言）の普及・継承の場となっている。

ウ 「わきや島塾」開催

わきや島（私たちの島）の「郷土理解」を学習テーマとし、講師を町の郷土資料館職員及び学芸員に依頼。小学生から一般まで幅広い年齢層の受講者を募集して年5回開催している。



島口ことわざかるた大会

(5) 特色ある取組として

ア 多読者表彰

一般町民及び児童生徒の読書活動推進を目的に、前年度一年間の多読者を表彰。

イ 図書館応募隊ボランティア「TTクラブ」の活動

小学4年生から高校生までの子供たちによる行事等への参加協力。

ウ 徳之島3町の図書館との連携

2019年7月、徳之島3町の図書館を共同運用することにより、3館の相互利用とインターネットによる蔵書検索、貸出予約、蔵書管理ができ、3町の住民の利便性が向上した。



多読者表彰

3 おわりに

島の本屋さんが減少していく中、図書館の資料充実は今後ますます必要不可欠となってくる。そのため、読書活動を推進し住民の生涯学習の拠点となるよう本と人々をつなぐ「地域に根差した図書館」を目指し、利用者の皆さんに「親しみの持てる図書館」・「世代間交流の場となる図書館」・「居心地のいい利用しやすい図書館」として身近に感じてもらえるよう、図書館運営により一層の努力を重ねていきたい。